下水道長寿命化支援制度の創設

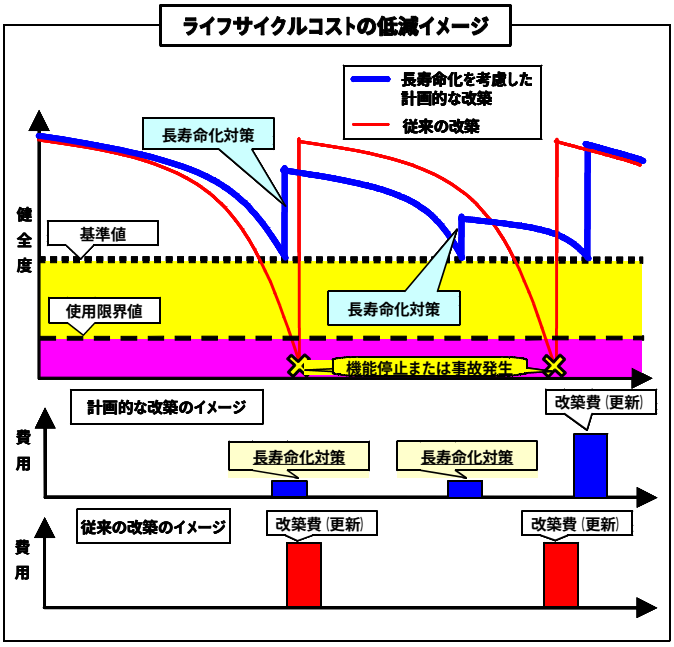
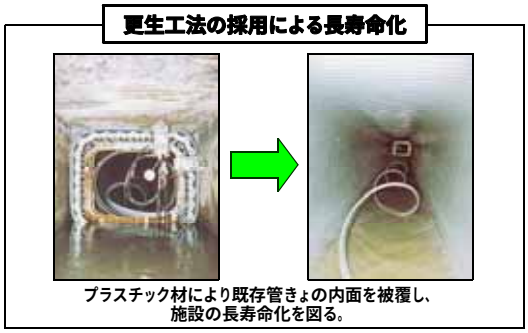
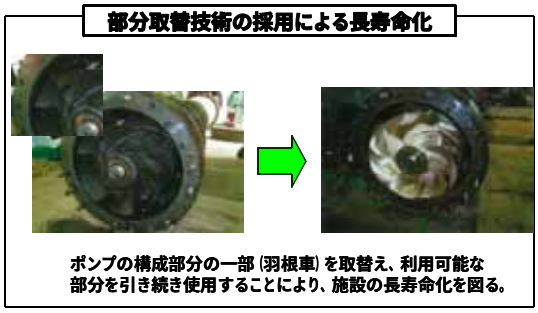
１．背景・目的

下水道整備の進展に伴い、管路延長は約３９万km、処理場数は約２，０００箇所にのぼるなど施設ストックが増大している。これに伴い、管路施設の老朽化等に起因した道路陥没も増加傾向にあり、平成１８年度の発生件数は約４，４００箇所にのぼっている。道路陥没後の老朽管路の改築といった事後的な対応では、市民生活に大きな支障が出るだけでなくコスト的にも不経済となる。

以上を踏まえ、日常生活や社会活動に重大な影響を及ぼす事故発生や機能停止を未然に防止するため、限られた財源の中で、ライフサイクルコスト最小化の観点を踏まえ、耐震化等の機能向上も考慮した、長寿命化対策を含めた計画的な改築を推進するものである。

２．概　要

ライフサイクルコストの最小化を目的とした長寿命化計画（対策内容、対策時期など）の策定に要する経費を補助対象とし、計画的な長寿命化対策を支援する。

３．事業効果

増大する下水道ストックをライフサイクルコストの観点から適正に管理し、下水道機能の継続性が確保される。